

Nara Women's University

是・・・的 文の "的"
の位置と話し言葉:不定名詞と人称代詞が目的語になる場合

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学日本アジア言語文化学会 公開日: 2022-09-06 キーワード (Ja): 是・・・的文, 的 の位置, 人称代詞, 不定名詞 キーワード (En): 作成者: 前田,真砂美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/5839

“是…的”文の“的”の位置と話し言葉 —不定名詞と人称代詞が目的語になる場合—*

前 田 真 砂 美

1. はじめに

現代中国語には、「是…的」構文」または「“是…的”文」と呼ばれる構文がある。日本で出版される中国語テキストや文法書にはほぼ取り上げられる文法項目である。たとえば相原茂・石田知子・戸沼市子著『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』では、このタイプの文について(1)のように説明している(太字強調は原文ママ、(2)(3)も日本語訳を含め同著より引用¹⁾)。

(1) ある動作がすでに実現していることは尋ねる方も答える方も承知しており、その上で動作・行為の行われた**時間・場所・方式・目的・対象・行い手**等を特に取り立てて述べる。(p.135)

(2) a 他 妹妹 昨天 来了。 [彼の妹は昨日やって来た]
彼 妹 昨日 来る Part
b 他 妹妹 是 昨天 来的。 [彼の妹は昨日やって来たのだ]
彼 妹 Cop 昨日 来る de

(3) a 他 给 小王 写 了 一 封 信。 [彼は王君に一通の手紙を書いた]
彼 ~に 王くん 書く Part 1 CLP 手紙
b 他 是 给 小王 写 信 的。 [彼は王君に手紙を書いたんだ]
彼 Cop ~に 王くん 書く 手紙 de

(pp.134-135)

(2a)(3a)は「彼の妹が昨日来た」、「彼が王君に手紙を書いた」というデキゴト自体を、新情報として述べたものである。一方、「是…的」を用いた(2b)(3b)は、「彼の妹が来た」、「彼が手紙を書いた」というデキゴトがすでに起っていることは既知情報であり、そこに「昨日」(時間)、「王君に」(対象)

* 本研究はJSPS 科研費 JP21K12983 の助成を受けたものである。

1 以降、特に断らない限り、用例における下線や太字強調は引用元からそのまま引用、用例の日本語訳は本稿筆者による。

という新情報を付加して述べることになる。

この“是…的”文には、①“是”が現れない場合がある²、②目的語³が“的”の前に来る語順（“是…VO的”）と後に来る語順（“是…V的O”）とがある、などの問題があり、とりわけ“是”や“的”の文法的機能の解釈において、一貫して大きな関心が寄せられてきた中国語文法研究の焦点のひとつである。そして、中国語学習者にとって適切な運用が難しい文法項目のひとつでもある。本稿は上記のうち、②の問題を扱う。目的語“信 [手紙]”を伴う（3b）は、（4）のようにも言うことができる。

（4）他是给小王写的信。⁴ [彼は王君に手紙を書いたんだ]
彼 Cop ~に 王くん 書く de 手紙

“的”が目的語の前に置かれることについては、多くのテキストや文法書ではごく簡単に触れられる程度である。たとえば下記では、“的”が目的語の前に置かれることに関連して「話ことば」「口語」を挙げているが、その理由や“的”の位置の違いによる意味的差異については触れられていない⁵。なぜ話し言葉では“是…V的O”の語順になりやすいのだろうか。

（5）話ことばでは“的”を動詞の後ろにじかに付けて目的語を後置するタイプの言い方 [⇒ “(是) …V的O。”] が多く使われます。

（古川裕著『チャイニーズ・プライマー—New Edition—』p.141）

（6）“是”の後に動賓連語が置かれた場合、話ことばでは、動賓の賓語

2 小野 2001 はいわゆる“是…的”文は「元来“是”が無い」のであり、“是”が現れない場合は「省略」されているのではなく、むしろ「是」を追加挿入できる場合がある（小野 2001:152）と認識すべきと述べている。

3 議論の便宜上、“是…VO的”、“是…V的O”におけるOを「目的語」と呼ぶこととする。

4 杉村 1983 は、このような文は“他[彼]”=“信[手紙]”ということになるため「非論理的構造」と断じている。これに対し、沈家煊 2008 は“移情 (empathy)”に基づく類推によるものとしている。元々ブランクである y に、b と x の“糅合 (blending)”を経て xb が産出される。

a. 这_i是昨天出的病人

b. 他_i是昨天出的病人

[これは昨日退院した患者だ]

[彼は昨日退院した患者だ]

x. 这_i是昨天出的医院

y. (一)

←xb. 他_i是昨天出的医院

[これは昨日退院した病院だ]

[彼は昨日退院した病院だ]

→昨日病院を退院したのだ]

(沈家煊 2008:392)

5 《现代汉语描写语法》は、“我们是昨天进的城。[私たちは昨日市内に入ったのだ]”と“我们是昨天进城的。”は、構造は異なるが意味的な差異は小さいとしている。

の部分を持ち離し、“的”の後に移すことが少なくない。

(興水優・島田亜美『中国語わかる文法』p.76)

(7) 口語では“的”が動詞に直接続く(a)の形式(本稿筆者注:「……+動詞+“的”+目的語」のこと)が多く用いられる。

(杉村博文『中国語文法教室』p.139)

(8) (宾语) 口語以放在“的”后更为常见。

(《实用现代汉语语法(第三版)》p.758)

[目的語は] 口語では“的”の後に置くほうが一般的である]

2. “的(de)”の位置

2.1. 焦点

“的(de)”の位置は、しばしば焦点や強調の問題として扱われる。たとえば袁毓林 2003 による分析は以下のように概略できる。

“了(le)”を用いた(2a)(3a)は袁毓林 2003 の言うところのデキゴト文(“事件句”)であり、デキゴト文の通常の焦点(“常规的(regular)焦点”)は目的語Oか連用修飾成分Adである。一方、“是…的”を用いる(2b)(3b)および(4)はいずれも事態文(“事态句”)に相当する。事態文である“是…的”文は、デキゴトがすでに起こっていることを前提とする。ゆえに、“是…的”に生起するOは新情報・未知のものではあり得ず、通常は焦点にならない。つまり、事態文を構成した時点でOはすでに焦点の所在ではなくなっているのだが、それを“是…的”という明示的なマーカー⁶の外(“的”の後ろ)に出すことで、Oはさらに焦点の作用域から外れることになる。“的”を目的語の前に置くことは、事態文においてすでに焦点から外れているOを、さらに脱焦点化するものであるといえる。

2.2. 「断定作用域」

青木 2017 は袁毓林 2012⁷を引きつつ、“是”から“的”までを新たに「断定作用域」と定義し、「“的”が述語動詞の目的語の前に生起すると、述語動詞の

6 「明示的な」とは、“是”が文中に現れていることを意味する。

7 袁毓林 2003 に校正を加えて収録した著作。

目的語が『断定』の対象から外れ、『断定作用域』が狭まり、述語動詞が表す動作行為がより集中的に『断定』される」(青木 2017:38-39)と述べている⁸。青木 2017 では、動作行為が集中的に断定されることで「より迫真に迫った表現が可能にな」(青木 2017:39)ることが、口語において“的”が目的語の前に置かれる形式が多く用いられる大きな要因と考えられているのであるが、この見解に沿って解釈すれば、下記の例では下線部が「迫真に迫った表現」ということになる。

(9) A: 什么叫不是什么大事儿啊? 你说了算吗? 你差点儿毁了我!

[何が大了ことないって? そう言えば済むことか? 危うくめっちゃくちゃになるところだったんだぞ!]

B: 没这么严重吧! [それほど深刻なことじゃないでしょ!]

A: 你说不严重就不严重啊? 是我雇的你!

Cop 私 雇う de あなた

[それはおまえが決めることか? 私がおまえを雇っているんだぞ!]

(テレビドラマ『我爱我家』第6話)(青木 2017:37)

“的”が目的語の前にあることで焦点(あるいは断定)の作用域が短くなるという観点については本稿も同様の立場を取るが、「迫真に迫った表現」が具体的にどのようなものかという点について、詳しく検討したい。

2.3. “的”の「モノ化機能」

上述のように、“是…的”文はデキゴトがすでに起こっていることを前提とした、已然義をもつ構文である。そこに“的”が選択される理由、および“是…的”文における“V的O”と“VO的”の差異を、動詞(句)が名詞を修飾する連体修飾構造“V的N”の無標の解釈が「已然」であることと関連付けて明確に述べているのが、小野 2001 である。小野 2001 は、杉村 1982 などが提唱する「先le後de説」⁹を支持しつつ、すべての“的”構造の機能は「モノ化(事物化、指称化)」であり、“V的N”はモノ(N)の存在を前提とした分類を行なうものであると主張している。“是…的”文においては“V的O”の

8 青木 2017 は、実例調査を通じて、従来の見方では北方特有の表現とされていた“是…V的O”が、実際には北方以外の出身の作家の文学作品にも少なからず用いられていることも明らかにしている。

Oがその分類対象で、“VO的”の分類対象は主語となる。先に挙げた(3b)(4)を例に説明すると、“他是给小王写信的。”は“他[彼]”に対する分類を、“他是给小王写的信。”は“信[手紙]”に対する分類を、“的”がそれぞれ行なっていることになる。

小野2001の「分類」説は、以下のような現象についても有効な解釈を提供することができる。実は、先に引用した(3b)の例は、本稿のインフォマント¹⁰には不自然であると判定され、“V的O”を用いる(4)であれば自然な文と判定された。以下に再掲し、さらに(11ab)を挙げる。

- (10) a ??他是给小王写信的。(=(3b))
彼 Cop ~に 王くん 書く 手紙 de
- b 他是给小王写的信。(=(4))
彼 Cop ~に 王くん 書く de 手紙
- (11) a 他是用毛笔写信的。 [彼は筆で手紙を書いたのだ]
彼 Cop ~で 筆 書く 手紙 de
- b 他是用毛笔写的信。 [彼は手紙を筆で書いたのだ]
彼 Cop ~で 筆 書く de 手紙

(11a)は“他[彼]”が手紙を書く際に筆を使う(使った)人間であることを、(11b)は手紙が筆で書かれたものであることを示すことができる。しかし(10a)は、人に対して「誰か特定の人物に手紙を書く(書いた)人間」と分類する状況が想定困難であるため、不自然な表現となると考えられる。

なお、牛秀兰1991は、“VO的”形式の“我是中午看电影的。”は、①「私は昼に映画を観たのだ〈観た時間の強調〉」と②「私は昼に映画を観る(観た)人間だ〈「私」の類別〉」の二義を持ち得るとし、この曖昧性を避けて①の意味のみを表すために“V的O”形式が採用されると分析している。本稿は、この文が個別のデキゴトが起こったあとに用いられれば(文脈上、それを前提とした発話であることが明示的であれば)①に、そうでなければ②に解釈されるのだと考える。

9 “是…的”文の已然義は、この形式がそれに先立つ述語性形式の「承前形式(anaphoric form)」であることに由来するものとする、杉村1982、1983、1999の一連の研究による分析。杉村1999は“是…的”文を「信息焦点指定型“是…的”句」[情報焦点指定型“是…的”文]と「事件原因解说型“是…的”句」[デキゴト原因解说型“是…的”文]に分類し、前者を“V了(O)”の承前形式と見なしており、この説においては、已然義をもつ“V了(le)O”などの動詞句を承けることで“的(de)”が已然義を獲得するとされる。小野2001はこの見解に修正を加えるものである。

10 本稿のインフォマントは、中国北方出身の女性である。

次章以降では、通常は“是…V 的 O”に生起することはないと指摘されてきた成分が目的語 O の位置に生起する例について考察し、「O に対する分類」の妥当性を検証する。

3. 不定目的語をとる“是…的”文

3.1. 目的語の定性

本章では、“是…V 的 O”に不定名詞が生起する例を取り上げる。以下はドラマからの用例である。拾ってきた犬をいま目の前で洗っている兄に対して、(血のつながらない)妹が問いかけている。目的語“狗 [犬]”が“的”の後にあり、さらに数詞と量詞¹¹“条 [匹]”を伴っている。

- (12) 你 从 哪里 捡 的 一 条 狗 啊。
あなた ~から どこ 拾う de 1 CLF イヌ MP
[どこから犬なんか拾ってきたの] (ドラマ《以家人之名》32集)

上述のように、“是…的”文は已然義をもち、デキゴトが起こったことを前提としている。O は初出・未知のものではあり得ず、ゆえに目的語には普通、新規導入の形式である不定名詞句は使用されない¹²。この点について、杉村 1999 は“V 的 (O)”が已然義をもつ“V 了 (O)”の承前形式であるために、不定の目的語をとることができないと述べている。また、刘莹・程工 2021:49 も、下記の二例を比較して (13b) が成立しないことを指摘している。

- (13) a 我 是 昨天 买 的 这 辆 自行车。
私 Cop 昨日 買う de この CLF 自転車
[私は昨日この自転車を買ったのだ]
- b *我 是 昨天 买 的 一 辆 自行车。
私 Cop 昨日 買う de 1 CLF 自転車
[私は昨日自転車を 1 台買ったのだ] (刘莹・程工 2021:49)

この指摘に反して (12) のような実例があることについて説明が必要となるが、このような“是…的”文と不定名詞句の共起には、意味的な条件が存在す

11 類別詞 (classifier)。

12 中国語では (3a) の“一封信”のような「数詞+量詞+名詞」の形式には不定の表示という働きがあり、多くは当該の事物を文脈に新規導入する際に用いられる。不定の表示と量詞とのかかわり、および、量詞の機能については、大河内 1985 の「量詞の個体化機能」を参照。

ると考えられる。

- (14) ^{??}你 (是) 从 哪里 捡 的 一 把 钥匙?
あなた Cop ~から どこ 拾う de 1 CLF 鍵
[どこから鍵を拾ってきたの]
- (15) 你 (是) 从 哪里 捡 的 一 个 小孩?
あなた Cop ~から どこ 拾う de 1 CLF 子ども
[どこから子どもを拾ってきたの]
- (16) ^{??}你 (是) 在 哪里 看 到 的 一 个 老师?
あなた Cop ~で どこ みる Res de 1 CLF 先生
[どこで先生を見たの]
- (17) 你 (是) 在 哪里 看 到 的 一 个 外星人?
あなた Cop ~で どこ みる Res de 1 CLF 宇宙人
[どこで宇宙人を見たの]

(14)、(16) と (15)、(17) の許容度の差は、V が示す動作行為と目的語 O の結びつきが常識的か否かという点で説明できる。鍵くらいは拾うこともあるだろうが、子どもを拾うとは何事か、どこかで先生を見かけることは珍しくないが、宇宙人を見たとは一体どういうことか。つまり、「拾う」と「子ども」、「見かける」と「宇宙人」とが現実世界においては通常結びつかないという話者の認識が存在している。一方、(13b) に関しては、「買う」と「自転車」の結びつきが常識的であるため不成立となる。先に挙げた (12) が成立するのは、舞台が都市部であるため野良犬がいること自体が稀であり、ましてやそれが「拾う」という行為と結びつくことは普通起こらないという共通認識が背景にあるためと考えられる。この「常識的でない」という判断により、“是…的”文の目的語に不定名詞句が用いられる例からは、驚きや訝りといったニュアンスが読み取れることになる。このような意味特徴を本稿では「意外性」と呼ぶこととする。

このように、構文の性質上、高い識別性 (high-accessibility) が求められる目的語に“数詞+量詞+名詞”という不定形式 (indefinite form) が用いられ、それが意外性と関連する例は、“把”構文 (“把”字句) にも存在する。

3.2. “把”構文と(数)量詞つき目的語

“把”構文の目的語に不定形式である(数)量詞つき名詞が使用された場合、“出乎意外 [意外である]”という主観的評価のニュアンスが生じることは早くから報告されており、たとえば数量詞つきの場合については馬希文 1987 が、

量詞のみを用いた場合については王惠 1997 がそれぞれ言及している。下記の(18) (19)の成立の可否について、马希文 1987 は、花瓶を倒すことは常識的に考えて非意図的で意外なことだが、洗ってきれいにすることは意識的な行為であり、意外性とは馴染まないことを指摘している。

(18) 我把一个花瓶碰倒了。
私 ~を 1 CLF 花瓶 ぶつかる 倒れるPart
 [私は花瓶を倒してしまった] (马希文 1987:440)

(19) *我把一个花瓶擦干净了。
私 ~を 1 CLF 花瓶 拭く きれいだ Part
 [私は花瓶を洗ってきれいにした] (马希文 1987:440)

杉村 2002 は、主に数詞のない“把+个+N+V”について、意外性の正体とそれが生じる経緯を論じている。杉村 2002 によれば、意味的には定である名詞 N に量詞“个”をつけることで、N が類名を表す不定成分となり¹³、これが N の情理的な属性（社会的常識や文脈によって付与されるもの）を活性化する。すると、活性化された属性と V との間に意味上のねじれ（“语义上的扭曲关系”）が生じ、これが意外性という解釈につながるのである。たとえば(20)のような、明らかに既出の人物である“老汉 [じいさん]”でさえも、量詞“个”をつけることで類名として提示することができる。“老汉”がもつ「容易に感情を動かされたりしない」といった情理的な属性と“感动得~ [感動のあまり~]”との間にねじれが生じるということである。(20)の“他 [彼]”と“老汉 [じいさん]”は同一人物である。

(20) 杨杰看他缸里水干了，挑起水桶，不大一会儿，给老汉挑了两担水，
 把个老汉感动得简直不知说什么好了。
~を CLF じいさん 感動する Part まるでわからない言う 何 よい SFP
 (张志民《仙山捉鬼》)(杉村 2002:18,24)

[楊傑は彼のかめのなかの水がなくなっているのを見ると、水桶を担ぎあげ、
 ほどなくしてじいさんのために2 荷の水を運んできて、じいさんを何と言え

13 “一量名”に類名を表示する類称 (kind-denoting) の機能があることは、刘丹青 2002、陆烁 2009 などによっても述べられている。このことは主に主語・主題の位置における“一量名”に対して議論されてきたが、白鸽 2014 は動詞や介詞（前置詞）の目的語の位置における“一量名”も類称である場合があることを指摘している。なお、刘丹青 2002 は“一量名”の類称機能を、1つの個体（部分）をもって類（全体）を指すメトニミーに基づくものとしている。

ば良いかわからないほどに感動させた。]

上記のような例では、話者の意図は情理的属性の活性化とねじれを表現することであり、Nの量詞の特徴（特に外観の特徴）や数の表示ではないため、使用される量詞が汎用性の高い“个”に限定されていき、かつ、数詞“一”が消失する。以上が杉村 2002 による“把+个+N+V”成立の意味論的経緯および「意外性」の解釈である。

上記は数詞のない“把+个+N+V”に関する分析であるが、数詞を伴う“把+一个+N+V”（このときの量詞は“个”に限定されない）の例においても、意外性が読み取れるものが多数存在する。たとえば、(21ab)は杉村 2002 が「“一个+N”が恣意的指示を表すもの（“一个+N”表示“任指”）」として挙げる例であるが、「人」と「引きずり出して銃殺刑にする」、「労働者」と「労働改造管教隊送りにすること」の関係に、「一声で」、「ハンコひとつで」が加わることで、「普通はあり得ない」という意外性が生じると考えられる。

- (21) a 只要他一拍桌子，骂 罵る 一 1 声 声 “汉奸”，就可以军法从事，把 一 1 个 CLF 人 人 拉 引 出 出 去 去 枪毙 行。
ひと 引→強る 出る 行く 銃殺刑に処す
 [彼が机を叩いて「売国奴」と一声罵りさえすれば、軍法に照らしてひとり
 の人間を引きずり出して銃殺刑にすることができる。] (杉村 2002:20)
- b 他在所里威信很高，因为他可以 盖 押す 一 1 个 CLF 图章 印鑑 就 把 一 1 个 CLF 工人 労働者 送 送る 进 入る 劳改队 労働改造管教隊，……
 [彼の所内での威信はすこぶる高い。ハンコひとつでひとりの労働者を労働
 改造管教隊送りにできるからだ] (杉村 2002:21)

また、(22ab)は「不定分析形式を定形式に置き換えたもの（以“无定分析形式”代替“有定指称形式”）」、(23ab)は「“一个+N”が全体を表すもの（“一个+N”表示“全部”）」の例であるが、(22ab)はいずれも「そのようなことをすべきでない」と述べるものであり、その裏には、「(話し手にとって)は驚くべきことに)聞き手がそれをしようとしている」という状況が存在する。(23ab)は「一人でソファを隙間なく占領する」、「グラス一杯のお酒を一気に飲み干す」といった、通常は想定されない行為の実行を描いている。

“是…的”文の“的”の位置と話し言葉

- (22) a 小心, 小心! 你 不要 把 一个 **失望的** 女人 逼 得
あなた ~するな ~を 1 CLF がっかりする Part 女性 圧力を加える Part
 太 狠 了, 她是什么事都做得出来的。
あまりにひどい Part
 [気を付けろ! 気落ちしている女性をあまり追い詰めてはいけない。彼女はなんだってやるぞ。]
- b 你……也是学着你父亲的英雄榜样, 把 一个 **真正明白** 你, **爱**
~を 1 CLF 本当に わかる あなた愛する
你的人 丢 开 不 管 么?
あなたPart 人 捨てる Res Neg かまう SFP
 [あなたも父親の勇姿にならって、本当にあなたのことをわかってくれる人、あなたを愛してくれる人を見捨てていくの?] (杉村 2002:21)
- (23) a 老塘趴在 一个长沙发上, 把 一个 **沙发** 都 占 严 了,
1 CLF 長い ソファ うえ ~を 1 CLF ソファ すべて 占める 隙間がない SFP
 ……
 [塘さんはソファに腹ばいになって、ソファを丸々占領してしまった。]
- b “党员同志, 敢不敢喝一杯二流子的酒解解渴?” 解净一惊, 转
 过脸来看见刘思佳站在车门口, 手里端着 一 杯 啤酒 直举到她面前。
1 CLF ビール
 ……她 一 仰 头 把 一 杯 酒 全 喝 下 去 了, ……
彼女ぱっと仰向く 頭 ~を 1 CLF 酒 すべて飲む Dir Dir SFP
 [解净がはっとして顔を向けると、車の前に劉思佳が立っており、手にビールの入ったグラスを持って彼女の前に差し出していた。……彼女はぱっとおって全部飲み干してしまった。] (杉村 2002:21)

さらに、「“一个+N”が感知された情報を表すもの（“一个+N”表示“感知信息”）」として挙げられている例においても、“把”構文の表す事態そのものが、聞き手に「何か」と思わせるものであることも見逃すことのできない点である。

- (24) 大家激动起来, 七手八脚 地 一 条 大汉 拖 了 过 来, 他
大勢で慌ただしく動き回る Part 1 CLF 大男 引きずる Part Dir Dir
 过于魁梧, 洞口把两肩都撕破了。
 [みんな興奮して、大勢で慌ただしく大男を引きずってきた。]

(杉村 2002:20)

このように、高い識別性が求められる構文の目的語に不定形式（数詞の有無に関わらず）が用いられると「意外性」が生じるという現象は、かなり一般性の高いものであることが見込まれる。

3.3. Oの存在とVの関係

2.3.で見たように、“V的N”がモノ(N)の存在を前提とした分類であり、“是…的”文においては“V的O”のOがその分類対象であるなら、類称であるモノの存在をVによって分類するというのは、何を意味するのだろうか。

3.1.で挙げた(12)“你从哪里捡的一条狗啊 [どこから犬なんか拾ってきたの]”における“一条狗 [1匹の犬]”は、類称機能をもつ不定形式であった。拾ってきた犬は実体をもつ個別的な特定の犬であるが、それは「どこかから拾ってくる」という行為によって発話現場に存在している。

(17)の“外星人 [宇宙人]”に関しては、宇宙人というモノが発話現場に実体として存在していることは想定しにくい。このタイプのモノは、存在自体が不確かであり、誰かが発見することによってその存在が担保され得る。つまり、“看到 [見かける]”という行為がO(宇宙人)のモノとしての存在を支えていると考えられる。

4. 人称代詞が目的語となる“是…的”文

4.1. 発話現場におけるOのあり方

“是…的”文における“V的O”がOに対する分類であり、連体修飾構造“V的N”との平行性を考えると、“是…的”文における目的語が人称代詞である場合には、一般的には“的”の前に置かれる¹⁴という言語事実にも説明がつくと考えられる。なぜなら、中国語では人称代詞に連体修飾を伴うことが少なく、“…的+人称代詞”の形式自体が稀だからである¹⁵。“是…的”文においても通常は“V+O(人称代詞)+的”の語順となる。

14 たとえば、「動詞に賓語がある場合、賓語が名詞であれば、“的”の位置は賓語の前でも後でもよい」が、「賓語が代詞であると、賓語の位置は“的”の前に限られる」(興水優・島田亜美『中国語わかる文法』p.378)、“如果宾语是人称代词，则常常放在‘的’前。[もし目的語が人称代詞であれば、常に“的”の前に置かれる]”(刘月华等《实用现代汉语语法(第三版)》)などの記述がある。

15 “人称代词和名词的区别是名词前边可以有修饰语，人称代词前边一般不能有修饰语。[人称代詞と名詞の違いは、名詞の前には修飾語を置けるが、人称代詞の前には普通修飾語を置けないことである]”(朱德熙 1982:81)、“专有名词和人称代词一般很少受定语修饰，不过在文学作品中还是可以发现。[固有名詞と人称代詞は一般的に減多に連体修飾を受けないが、文学作品の中には例を見つけることができる]”(刘月华等 2019:467-468)など。また、楊凱采 2011/2018 は日中対照を通して、中国語では人称代詞が連体修飾を受ける例が極端に少ないことを検証している。

しかし、以下に挙げるように、人称代詞が目的語となる場合においても、“的”の後に置かれる例がみられる。以下の用例はすべてドラマからの引用である（以下の用例は中国語字幕をそのまま引用し、句読点などは補わない）。

(25) A：我一滴都没有淋到 因为有人接我 其实也就是顺路 你们 都
あなたたち みな

不 好奇 是谁 接的 我 呀
Neg 興味をもつ Cop 誰 迎える de 私 MP

B：知道知道知道 是你 妈 接的 你
Cop あなたお母さん迎える de あなた

[A：全然濡れてないだろ。迎えに来てくれた人がいたんだよ。実は通り道だったからなんだけど。おまえら、誰が俺を迎えに来たか興味ないのか？

B：知ってる知ってる。お母さんが迎えに来てくれたんでしょ]

（《以家人之名》46集）

(26) 当初我在最困难的时候 是谁 照顾的 我 是我 妈
Cop 誰 面倒をみる de 私 Cop 私 母

[以前私が一番大変だったとき、誰が私の面倒を見てくれた？私の母]

（《都挺好》第4集）

(27) 这事你可千万别跟我哥说 是我 找的你 啊
Cop 私 訪ねる de あなた MP

[この事は、私があなたに連絡をとって兄には絶対に言わないで]

（《都挺好》第12集）

(28) 明哲不知道你还不知道吗 在这个家里她 怎么 对的 你 怎么
彼女どのように 対する de あなた どのように

对 的 我
対する de 私

[明哲は知らなくてもおまえは知っているはずだ。この家で彼女がおまえをどんなふうにあつてきたか、俺をどんなふうにあつてきたか]

（《都挺好》第32集）

(25) は、長い間疎遠だった母親が雨の日に傘を持って迎えに来てくれたことを、自宅に戻った A が嬉しそうに話す場面である。(26) は、ある女性が父親（女性にとっての義父）を呼び寄せて面倒を見るよう夫から言われ、自分が出産で大変だった時に義両親は手伝いにも来ず実母が自分を支えてくれたのに、その実母には孝行させてもらえず義父の面倒だけみることと不満を述べている。(27) は、失業した兄のために妹が知り合い（＝“你 [あなた]”）に頼んで再就職の都合をつけてもらったのだが、そのことを兄には内緒にするよう頼む場面である。この人物は「求職サイトに登録されていた履歴書を見た」と言って兄とコ

ンタクトをとり、兄と面接もしている。(28)の話し手は妻(=“她[彼女]”)を亡くした老齡の男性で、妻を恐れるあまり家にある家具さえも彼女を思い出して怖いから捨ててほしいと訴え、なぜそんなに怖がるのかと娘(=“你[おまえ]”)に問いただされて(28)のように答えている。

このような例において、人称代詞である“你[あなた]”や“我[私]”は、動作行為Vによってそのあり方を限定された“你”、“我”であるということができる。(25)のシーンでは、“我[俺]”は迎えがあったおかげで(傘を持たずに外出したのに)雨に濡れていない状態で発話現場に存在している。「(誰かが)迎えに来た」という行為により、発話時点の“我[俺]”のあり方が規定されていると考えることができるのである。同様に、(26)は、発話者である“我[私]”が誰に支えられて今ここに存在しているのか、そのことについて聞き手に考慮を促しており、(27)も、“你[あなた]”が発話者の仲介によって自分の前に現れた人物だということを、兄に悟られないようにするものである。(28)の“她[彼女]”は、息子二人にはとことん甘いが娘と夫には(特に娘には)非常に苛烈にあたり続けた人物である。そのことが夫を委縮させ、娘の人格形成にも多大な影響を及ぼした。発話現場に存在しているのはそのような“我”、“你”であり、そのことを聞き手に確認させる働きを、“是…V的O”が担っている。

この点は、“VO的”を用いる下記の例とは対照的である。

(29) 当初你创业他们是 怎么 帮 你 的 现在用不上他们了 你就卸磨
杀驴呀
彼ら Cop どのように 助ける あなた de

[昔あなたが起業したとき、彼らはどれだけ助けてくれた？ 使い道がなくなったら見捨てるのか] 《《都挺好》第27集》

(30) 你们知道领导是 怎么 骂 我的 吗
上司 Cop どのように 非難する 私 de IP
[上司がどんなふうに私を非難したかわかる?] 《《都挺好》第20集》

(29)は、社長(=“你[あなた]”)が役に立たない親族(=“他们[彼ら]”)を経営陣から追い出そうとし、息子がそれに反対する場面である。ここで問題となるのは“你[あなた]”のあり方ではなく、“他们[彼ら]”がどのような人物であるかを考えさせ、処遇を改めさせることである。(30)は仕事で重大

なミスを犯し、上司に大声で厳しく叱責されたあとの発話である。ミスに対する上司の反応を述べている。

4.2. 話し言葉との関連

人称代詞は特定の人物を指示対象とするものであるため、修飾語によって限定する必要がない。修飾語がつくとすれば、それはいわゆる「非限定的用法」(益岡 1995)である。しかし、上述のように、“是…V 的 O”の O に生起する人称代詞は、単に特定の個人を指称するのみではない。2.2.で青木 2017 より引用した“是我雇的你！[私がおまえを雇っているのだ]”(=(9))という例も、「おまえは私に雇われてここにいる(だからおまえに決定権はない)」という、「ここ」における「おまえ」のあり方を規定して述べるものであり、この意味においては“的”以前の成分はやはり O を「限定」していると言える。そして、このような「あり方」の表明は極めて現場依存的であり、発話現場において臨時的に選択・使用されるものである。このことが、話し言葉において“V 的 O”の使用が増える要因のひとつであると考えられる。

5. おわりに

本稿は、小野 2001 の「分類」説をベースに、通常は“是…V 的 O”の O の位置には生起しないとされる成分——不定名詞と人称代詞——が用いられる例について、その成立要因の解釈と、それらが話し言葉において多く見られる原因の解明を試みた。不定目的語をとる“是…的”文については、実例が非常に少なく、また、人称代詞が目的語となる例については、“是…V 的 O”の“…”の部分に疑問詞“誰 [だれ]”や“怎么 [どのように]”が生起する疑問形式のものがほとんどで、一般性の獲得にはより多様な成分を伴う例の分析が必要である。この点については稿を改めることとしたい。

八一

【グロス一覧】

CLF：類別詞 (classifier) Cop：コピュラ (copula)

Dir：方向補語 (directional complement) Inter：疑問詞 (interrogative)

IP：疑問助詞 (interrogative particle) MP：語気助詞 (modal particle)

Neg：否定 (negative) Part：助詞 (particle) Res：結果補語 (resultative)

SFP：文末助詞 (sentence-final particle)

【用例出典】

ドラマ《都挺好》，2017年，东阳正午阳光影视有限公司

ドラマ《以家人之名》，2019年，华策影业有限公司・北京老有影视文化有限公司・新沂张新成影视文化工作室・北京幸韵文化传播有限公司

【参考文献】

(中国語)

白鸽 2014 “一量名”兼表定指与类指现象初探，《语言教学与研究》第4期，pp.61-69

刘丹青 2002 汉语类指成分的语义属性和句法属性，《中国语文》第5期，pp.411-422

刘莹・程工 2021 从焦点的类型看“的”字结构的语义，《中国语文》第1期，pp.28-42

刘月华・潘文娣・故[韦华] 2019 《实用现代汉语语法（第三版）》，商务印书馆

陆烁 2009 “一量名”主语的指称情况研究，邵敬敏・谷晓恒主编《汉语语法研究的新拓展》（四），北京大学出版社

马希文 1987 与动结式动词有关的某些句式，《中国语文》第6期，pp.424-441

牛秀兰 1991 关于“是…的”结构句的宾语位置问题，《世界汉语教学》第3期，pp.175-178

杉村博文 1999 “的”字结构、承指与分类，江蓝生・侯精一主编《汉语现状与历史的研究》，中国社会科学出版社，pp.47-66

杉村博文 2002 论现代汉语“把”字句“把”的宾语带量词“个”，《世界汉语教学》第1期，pp.18-27

沈家煊 2008 “移位”还是“移情”——析“他是去年的孩子”，《中国语文》第5期，pp.387-395

唐翠菊 2002 数量词在多层定名结构中的位置，《语言教学与研究》第5期，pp.28-35

陶红印 2002 汉语口语叙事体关系从句结构的语义和篇章属性，《现代中国語研究》第4期，pp.47-57，朋友書店

完权 2018 《说「的」和「的」字结构》，学林出版社

王惠 1997 从及物性系统看现代汉语的句式，《语言学论丛》第19辑，pp.193-252，商务印书馆

袁毓林 2003 从焦点理论看句尾“的”的句法语义功能，《中国语文》第1期，pp.3-16

袁毓林 2012 《汉语句子的焦点结构和语义解释》，商务印书馆

张斌主编 2010 《现代汉语描写语法》，商务印书馆

朱德熙 1961 说“的”，《中国语文》第12期

“是…的”文の“的”の位置と話し言葉

朱德熙 1978 “的”字结构和判断句，《中国语文》第1-2期 [袁毓林编 2001《朱德熙选集（二十世纪现代汉语语法“八大家”）》，pp.317-338，东北师范大学出版社]

朱德熙 1982 《语法讲义》，商务印书馆

朱德熙 1983 自指和转指，《方言》第1期，pp.16-31

（日本語）

青木萌 2017 “（是）……的”構文の幾つかの問題点について、『人文研究』192，pp.19-50，神奈川大学人文学会

大河内康憲 1985 量詞の個体化機能，『中国語学』232号

小野秀樹 2001 “的”の「モノ化」機能——「照応」と“是…的”文をめぐる——，『現代中国語研究』第3期，pp.146-158，朋友書店

杉村博文 1982 中国語における動詞の承前形式，『日本語と中国語の対照研究』第6号，pp.43-62，日本語と中国語対照研究会編

杉村博文 1983 “的”前移せよ，『中国語学・文学論集』東方書店，pp.465-484

益岡隆志 1995 連体節の表現と主名詞の主題性，益岡隆志・野田尚史・沼田善子編『日本語の主題と取り立て』pp.139-153，くろしお出版

楊凱栄 2011 日中連体修飾節の相違に関する考察，《汉日对比语言学论丛》第2輯，pp.1-32 [楊凱栄 2018『中国語学・日中対照論考』（白帝社）に転載]

（テキスト・文法書）

相原茂・石田知子・戸沼市子『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』，1996年初版、2016年新訂版、同学社

古川裕『チャイニーズ・プライマー —New Edition—』2001年，東方書店

興水優・島田亜美『中国語わかる文法』2009年，大修館書店

杉村博文『中国語文法教室』1994年，大修館書店

——まえた まさみ・本学准教授